

関係機関からの流域治水の推進に向けたメッセージ要旨

大崎市 伊藤市長



- この地域は、7年間で3度も甚大な被害が発生しているが、その都度、再度災害防止対策に取り組んでいただき、その後の危険な雨を乗り切ったのは事業効果の表れである。
- 鳴瀬川ダムの早期完成を待ち望んでおり、地元としてしっかりと協力していきたい。
- 古川市街地の大江川周辺の浸水被害の常習化に対し、市においても大崎市雨水管理総合計画を策定し、沿川地区を最優先対策地区の一つに位置づけ、浸水被害軽減を図っていく。
- 大崎耕土の歴史文化や生業を踏まえて、巧みな水管理システムを維持発展させ、現代版巧みな水管理を特定都市河川の中にも活かしていきたい。
- 先人が残してくれた田んぼもグリーンインフラとして流域治水の役割を担ってきたい。また、宮城県田んぼダム実証コンソーシアムにより、今後も取組拡大していく。
- 特定都市河川の指定による河川整備の加速化、法的枠組を活用した取り組みによる浸水被害の防止・軽減に期待する

加美町 石山町長



- 多田川流域は世界に冠たる大崎耕土の真ん中に位置しており、今回の治水対策は大崎耕土の米作りを初めとする農業に資すると思っている。
- 流域治水の素晴らしいところは河川に留まらず、山林の管理や農地の活用についても一緒に考えるところ。加美町は町の7割を森林が占めており、しっかりと山の管理もしていくことが重要である。
- 上流域で増える耕作放棄地により、流域の浸透・保水能力が低くなるため、上流域の責任として耕作放棄地対策をしっかり行いながら田んぼダム等を推進していきたい。
- 鳴瀬川ダムが出来ていれば、令和元年東日本台風で鳴瀬川の水位は60cmぐらい下がっていたという検討結果もあると聞く。今後一層、総合的に連携を図りながら、取り組んでいきたい。

東北農政局 平山参事官



- この地域は有数の稲作地帯で、これまでも多くの土地改良事業を進めてきており、利水や排水の面で非常に苦しんだ地域である。
- 平成27年の関東・東北豪雨では、この会場に隣接する米袋排水機場が、浸水によりポンプが稼働不能となり大規模な浸水被害が発生したため、平成30年から耐水対策を実施し、令和4年7月洪水ではポンプ場の浸水は防止出来た。引き続き、農業用排水施設の機能向上を図るとともに、農業排水施設の防災対策を推進していきたい。
- 農地等の湛水被害の防止は、関係する皆様との協力が不可欠である。
- 田んぼダムは、水害が発生した地域だけでなく、上流域や様々なところに大きな視野を持ってやっていくことが必要である。このような場も活用しながら皆様と一緒に取り組みを進めていきたい。

大崎土地改良区 菅原理事長



- 平成27年関東・東北豪雨災害では、国土交通省、農林水産省、関係機関の協力で早期に排水していただき、水稲は被害を免れた、改めて感謝申し上げる。
- 異常気象に対し、改良区でも田んぼダム等の取り組みを行っており、今後も取り組み面積を拡大しながら、機能も高めていきたい。
- 農業サイドは水稲に関し、4ヶ月米袋排水機場に頼っているが、残りの8ヶ月は防災・減災に活用しており、地域の内水被害軽減に貢献している。
- 1団体では守れないような自然災害が多発している。流域治水の考えのもと、1日も早く特定都市河川の指定により、最大限に効果を発揮できればと思う。